

(1) 実施機関名：

気象庁

(2) 研究課題（または観測項目）名：

（和文）全国地震カタログの作成
（英文）

(3) 関連の深い建議の項目：

6 観測基盤と研究推進体制の整備

(1) 観測研究基盤の開発・整備

エ. 地震・火山現象のデータベースの構築と利活用・公開

(4) その他関連する建議の項目：

(5) 本課題の5か年の到達目標：

○気象庁、大学、関係機関のデータにより震源決定等の解析を行い全国地震カタログを作成する。定常的な発震機構解析（初動発震機構解、CMT解）及び大地震時の震源過程解析を実施し、それら成果の関係機関等への提供及び一般への公開を実施する。

○新たな海域観測網の地震波形データを一元化処理へ取り込み、地震波形の分析や震源決定等の改善を進める。

○大学等の検測値を取り込んで過去にさかのぼった震源決定を行い、地震カタログの過去震源の改訂作業を実施する。

(6) 本課題の5か年計画の概要：

○各年度において、地震カタログ（震源、発震機構）の作成及び震源過程解析を実施し、関係機関等への提供及び一般への公開を実施する。

○新たに整備された海域観測網の地震波形データの一元化処理への活用をすすめる。

○過去震源の改訂については、1976年7月から1982年12月の期間について大学等の検測値を取り込んだ震源再計算を行い、適宜地震カタログに反映する。

(7) 令和6年度の成果の概要：

・今年度の成果の概要

地震カタログ（震源、発震機構解）を令和4年10月から令和5年3月まで作成し、地震月報（カタログ編）として気象庁ホームページに公開した。南海トラフ沿いの深部低周波地震カタログの作成では、Matched filter法を用いているが、テンプレートの追加および閾値の調整を行った（令和7年2月運用開始）。

震源過程解析については、令和6年8月8日に日向灘で発生したM7.1の地震を含む国内外の地震を対象に解析を行い、断層滑り分布等の解析結果を気象庁ホームページに公開した。

・「関連の深い建議の項目」の目的達成への貢献の状況と、「災害の軽減に貢献する」という目標に対する当該研究成果の位置づけと今後の展望

地震カタログの作成、公開を継続するとともに、深部低周波地震カタログの更なる充実を進めた。地震活動を適時的確に把握するため、今後も継続する。

- (8) 令和6年度の成果に関連の深いもので、令和6年度に公表された主な成果物（論文・報告書等）：
・論文・報告書等

地震月報（カタログ編）,査読無,謝辞無

国内で発生した顕著な地震の震源過程解析結果,査読無,謝辞無

海外で発生した顕著な地震の解析結果,査読無,謝辞無

- ・学会・シンポジウム等での発表

岩切一宏・青木重樹・菅沼一成・宮岡一樹・山内崇彦・廣田 伸之, 2024, M7.6の地震を含む2020年12月からの令和6年能登半島地震の地震活動, JpGU2024, U15-P02

武田清史・束田進也・岩切一宏・吉田昌弘・宮岡一樹・長谷川安秀・平原拓実・清水淳平・菅沼一成・野田朱美・山本麦・藤田健一・溜渕功史・廣田伸之・青木重樹, 2024, 2024年8月8日の日向灘の地震の概要とその発生に伴い発表した南海トラフ地震臨時情報について, 日本地震学会2024年度秋季大会, S23-01

- (9) 令和6年度に実施した調査・観測や開発したソフトウェア等のメタ情報：

- (10) 令和7年度実施計画の概要：

引き続き、地震カタログ（震源、発震機構）の作成及び震源過程解析を実施し、関係機関等への提供及び一般への公開を実施する。

- (11) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

気象庁地震火山部地震火山技術・調査課
他機関との共同研究の有無：無

- (12) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：気象庁地震火山部管理課地震調査連絡係長
電話：03-6758-3900（内線：5114）
e-mail：johokan@eqvol2.kishou.go.jp
URL：https://www.jma.go.jp/

- (13) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：溜渕功史
所属：気象庁地震火山部地震火山技術・調査課